

日本女子大学史資料集 第五

日本女子大学校規則

〔明治三三年〕

日本女子大学史資料集 第五

日本女子大学校規則

〔明治三三年〕

「日本女子大学校規則」の復刻について

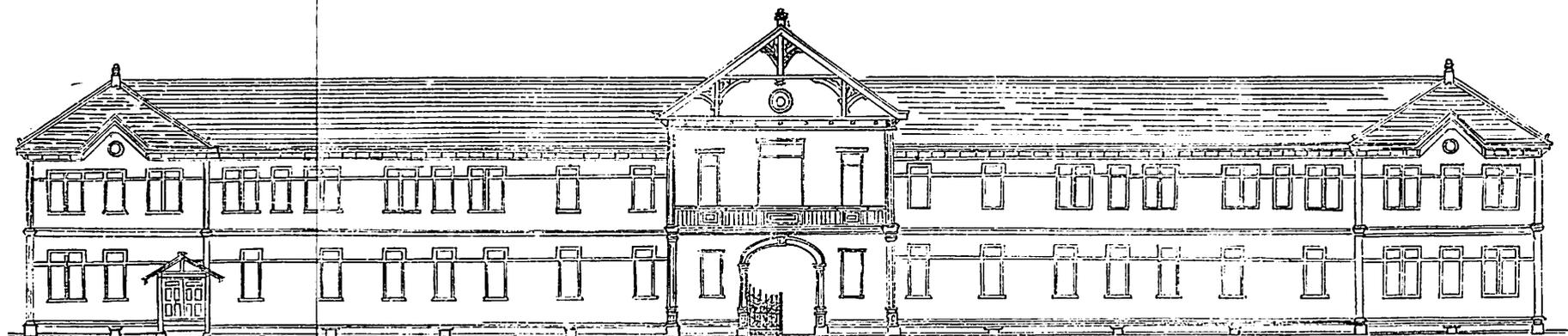
一、この「日本女子大学校規則」は、明治三十三年一〇月三日に刊行されたものである。大きさは22×15 cmであるが、復刻に当たり、体裁上の変更をした。変更部分は左記の通りである。

- ・ 天地をカットしたこと。
 - ・ 左右をカットしたこと。
 - ・ 表紙と本文は別種の紙を用いているが、ここでは同一としたこと。
 - ・ 図面の折りを変更したこと。
- 一、「日本女子大学校規則」は、学園創設の初期を除き、ほぼ毎年刊行された。順次、本資料集として復刻する予定である。

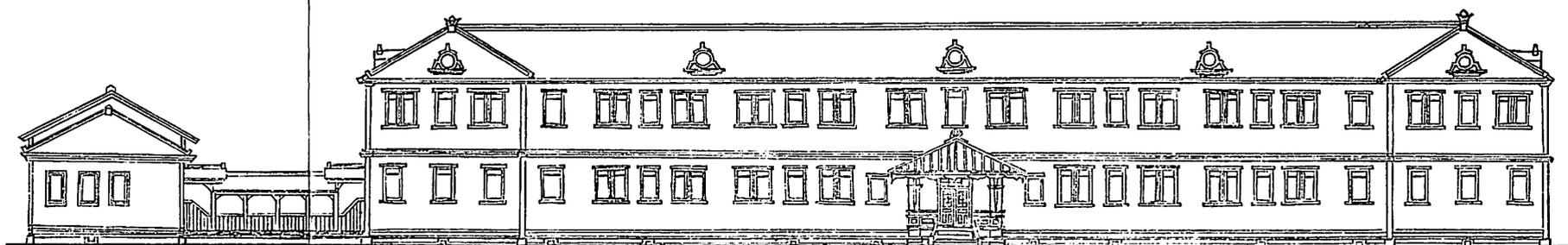


明治三十三年

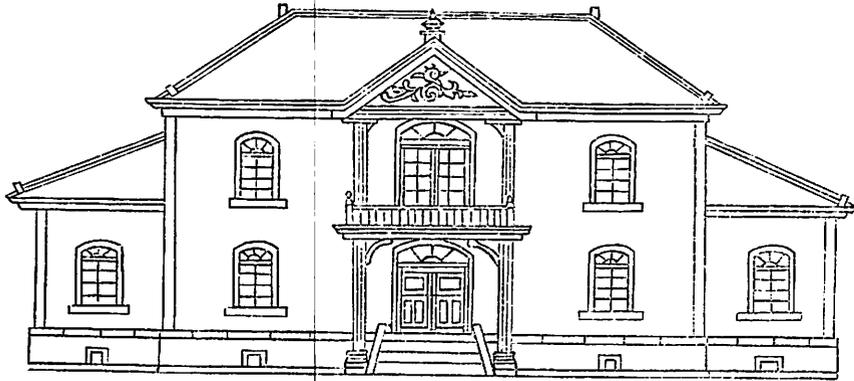
日本女子大學校規則



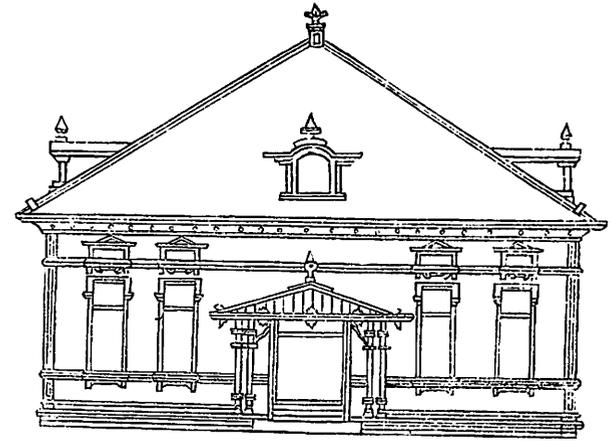
本 校 正 面



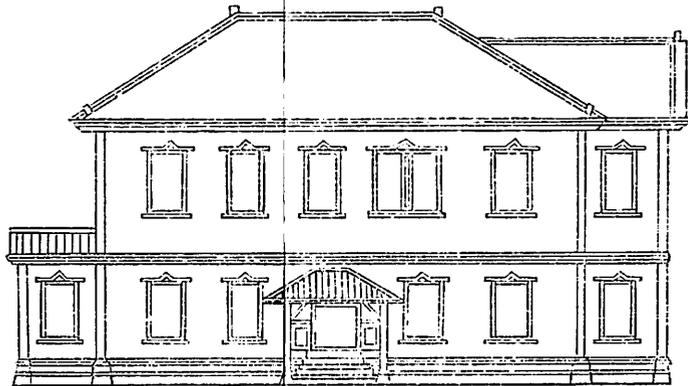
附 屬 高 等 女 學 校



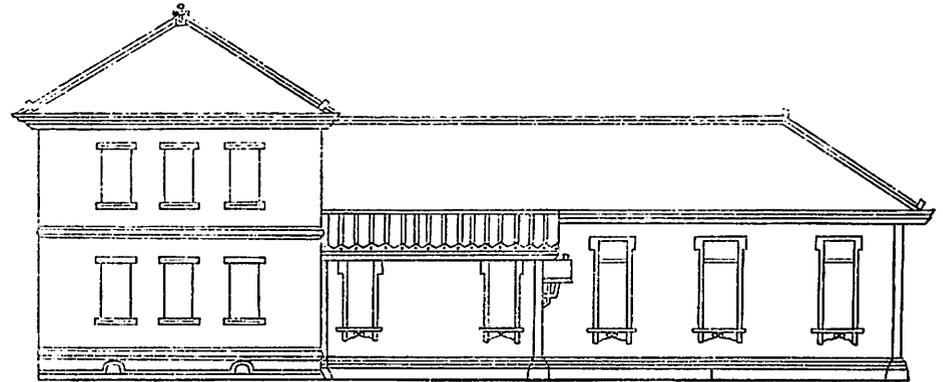
場育体



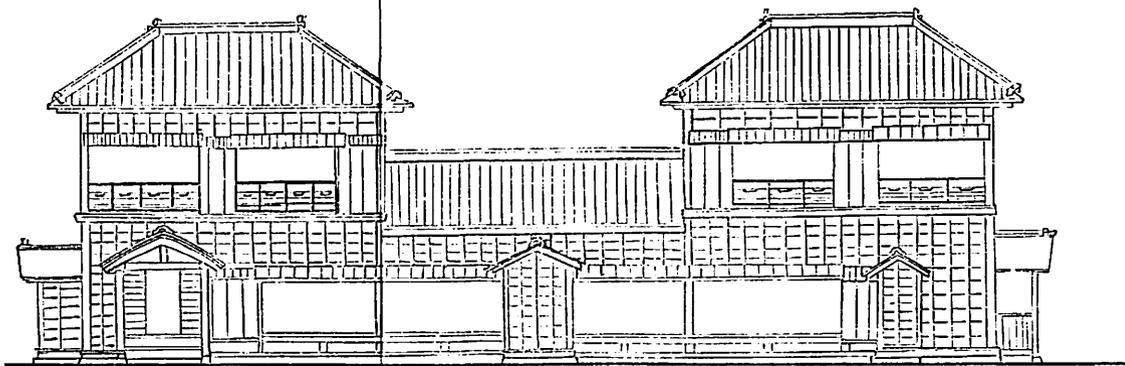
堂講



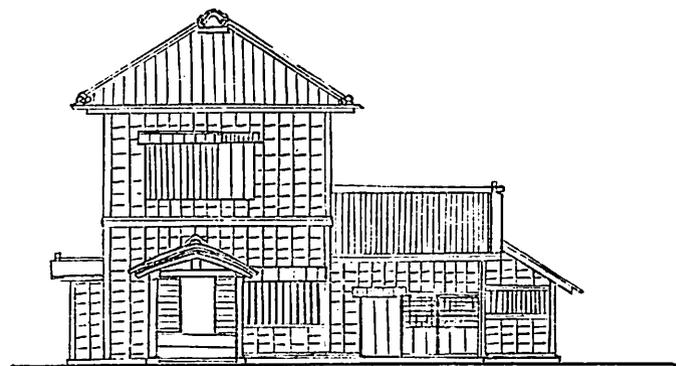
舍宿寄及館師教



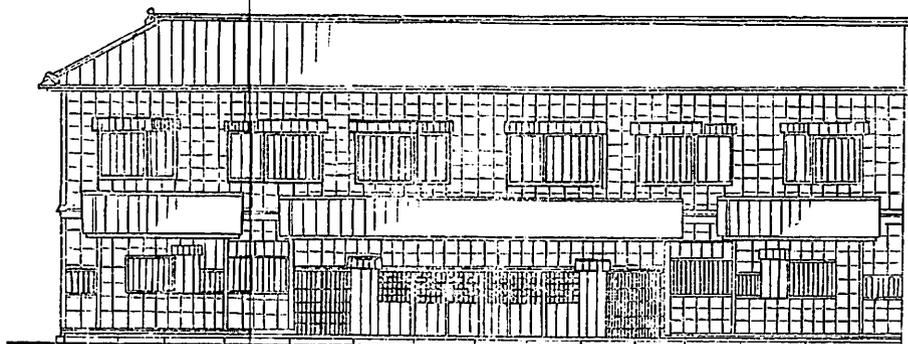
庫書 室覽閱



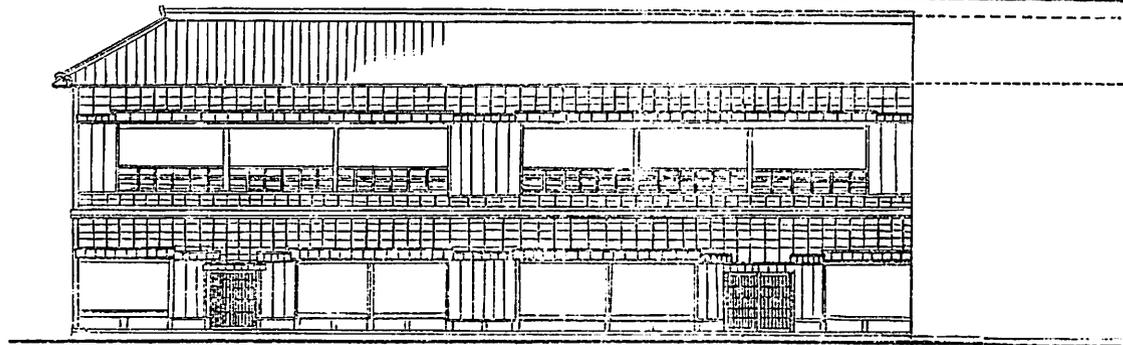
宅住貞教



宅住長松



西北金宿野



西南金宿野

日本女子大學校教育の要旨

方針

本校は過去に鑑み現在に照らし又大に將來に慮り茲に女子を人とし婦人とし國民としての三方面より教育するの方針を執り本邦女子の心身の能力と日進月歩の社會の狀態とに適合せる一定の高等教育を授け其品位と實力とを高め能く社會の進歩推移に順應して女子たる者の天分を盡すに足るの素養を與へんことを期す本校に女子を器械若くは藝人の如くに視なして只管眼前實用の學藝のみを授け人としての教育に注意せざるの弊を避け女子をして如何なる境遇に處し如何なる職業に従ふも人として必ず缺くべからざるの資

質を養はふめんことを欲す又女子をして淑女となり良妻賢母となりて其天分を完ふせしめんとするの決して容易の業に非ず本校の敢て此方面に向て特に力を注かんと欲す且國民の一半を組成する女子にして國家の盛衰社會の消長に痛痒を感じるここに能はざるの國家社會の一大不幸たり乃ち本校の女子に國民たるの觀念を與へ社會の一員たることを自覺せしめ以て國家社會に對し女子としての義務を盡さしめんことを欲す

方法

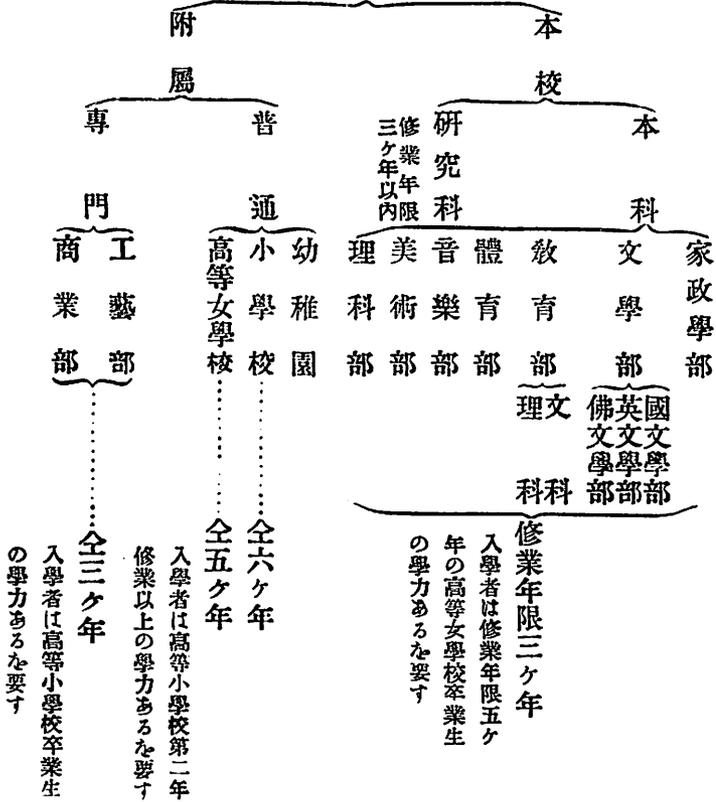
本校の開發主義の教育を施し智情意體の四育の勿論何等の科目を問はず凡て生徒自ら研究し動作するの能力習慣を養ひ女生の通患として漫に他人の思想動作を摸倣し單に教師

の講義説明に依頼するの弊なからしめんことを期す殊に德育に於ては自奮自脩の精神を喚起し他の命令指揮を待たずとも進て各自の職分を盡すの良習を養成せしめんと欲す本校の務めて生徒各自の特性に適合せる教育を施し體質の強弱に依ては體操運動の輕重難易を異にし天才の適不適に依ては學科々目の選擇に示導を與ふべし是れ本校各學部の規則中に必修科と選修科とを併置し且本校及附屬高等女學校に選科生の入學を許可するの制を設けたる所以なりとす德育に於ても亦生徒各自の習慣氣質に應じて適宜の訓戒獎勵を與へんことを期す

組 織

多少の變更増減に免れざるべきも本校完成の曉に於ける組織を大略左表の如くなるべし

日本女子大學校



而して其中には初等教育あり中等教育あり高等教育あり普通科あり専門科あり高低難易相合して一校を成すものにして本校の主眼とする所は首尾の系統整頓せる教育組織を本校内に設け本校執る所の教育の方針及方法を実施して淑女たり良妻賢母たるべき者を養成し旁ら本邦女子教育改善の方法を研究實驗せんと欲するに在り又本科の修業年限の如きは本邦現時の社會の狀態と女子の心身の能力とに適合するを標準となし當分高等女學校卒業後三ヶ年以内に卒業するの程度に止め置き過度の高等知育に馳せ身体の健全を害するか如き弊を避け徐々に其實効を挙げむことを期す

位 置

本校は東京市小石川目白臺の鬱蒼たる樹林の裡に在て地高

く水清く空氣新鮮にして最も衛生に適するのみならず遠く市街の熱沓を離れ閑靜なまて舊跡勝地に富み極めて勉學に適す加ふるに僅に數丁を隔てて目白停車場(音羽も近設)あり通學にも亦便なりとす

寮 舎

本校を殊に寮生の薰陶に重きを置くか故に家族制度の寮舎を設けその構造裝飾より生徒の監護訓練に至るまで凡て實際の家庭に倣ひ校長教員を校内に住居せしめ寮監と共に生徒の父母兄弟に代て監督の任に當らしめ生徒を志して自奮自脩の精神を以て家族同様の共同生活を營み共に歡樂悲哀を頗ち言語動作より洒掃炊事に至るまで凡て善良なる家庭に在ると同一の良習を養はしめ知らず識らずの際に良妻賢母

とるの素養を修めしめんことを期す

八

附言

將來の計畫

今日までの寄附金拾餘萬圓に達し加ふるに三井家より五千四百余坪の校地を寄附せられとるに依り當初の計畫に従ひ茲に明治三十三年九月より校舎の建築に着手し全三十四年四月より開校することに決議せり然れども初學年度には本科の家政文學の兩學部及附屬高等女學校を創設するに止め資金の増加を待て漸次よ擴張せんと欲す別紙學科の組織表及別紙設計圖面にて示せるう如く未設の學科及校舎尙多きに居る此等は凡て篤志家の義捐を待て増設擴張するものとす特に建築物器械若くは圖書等の費用として巨額の寄附を

せらるゝことあるは本校の嘉て受納する所なり

○發起人

侯爵夫人 伊藤 梅子

男爵夫人 岩崎 早苗子

市島 徳次郎

磯野 小右衛門

侯爵夫人 蜂須賀 隨子

原 六郎

濱岡 章子

時任 爲基

土居 通夫

殿村 平右衛門

土倉 壽子

侯爵夫人 大山 捨松子

伯爵夫人 大隈 綾子

大森 豊子

大倉 徳子

大西 五一郎

伯爵夫人 樺山 登茂子

川崎 芳太郎

子爵夫人 高島 春子

田中市 兵衛

田村 太兵衛

田邊 貞吉

成瀬 仁藏

村山 龍平

男爵夫人 内海千代子

浮田 桂造

右近權左衛門

野崎武吉郎

男爵 九鬼隆一

男爵夫人 山田清子

藪田勤兵衛

伯爵夫人 松方政子

松本 濱子

前川 楨造

公爵夫人 近衛貞子

鴻池善右衛門

鴻池新十郎

芦田順三郎

侯爵 西園寺公望

男爵夫人 北島三枝子

菊地侃二

木原忠兵衛

男爵 三井八郎右衛門

三井捨子

男爵夫人 澁澤兼子

芝川又右衛門

澁川忠次郎

伯爵 土方久元

廣瀬 宰平

廣海仁三郎

廣岡 久右衛門

森村 市左衛門

砂川 雄峻

廣岡 淺子

周布 貞子

住友 吉左衛門

○創立委員

男爵 岩崎 彌之助

稻垣 滿次郎

土倉 庄三郎

大三輪 長兵衛

高崎 親章

田中市 兵衛

辻 新次

村山 龍平

野崎 武吉郎

伯爵

伊藤 德三

濱岡 光哲

大隈 重信

嘉納 治五郎

田中 源太郎

田村 太兵衛

成瀬 仁藏

男爵

內海 忠勝

久保 田讓

薮田勘兵衛

前川 楨藏

公爵 近衛篤麿

兒島 惟謙

侯爵 西園寺公望

菊地 侃二

男爵 北島治房

三井 高保

三井三郎助

男爵 澁澤 榮一

伯爵 土方久元

廣岡 信五郎

工學博士 平賀義美

住友 吉左衛門

○ 建築委員

男爵 岩崎彌之助

久保田 讓

兒島 惟謙

三井三郎助

男爵 澁澤 榮一

住友 吉左衛門

日本女子大學校規則

第一章 總 則

第一條 目的 本校は本邦の女子に適實なる高等の學藝を授け能く日進の社會に順應して其職務を完ふするの淑女たり良妻賢母たるべき者を養成する所とす

第二條 名稱 本校は日本女子大學校と稱す

第三條 位置 本校は東京市小石川區高田豊川町に置く

第四條 附屬學校 本校に附屬高等女學校附屬小學校附屬幼稚園並に簡易專門諸學校を附設す

但し初學年度には附屬高等女學校のみを附設し漸次に増設するものとす

第二章 學科 科目 修業年限

第五條 學科 學科を分ちて本科及研究科とす

第六條 學部 本科を分て家政部、文學部、教育部、體育部、美術部、音樂部、理化部とす

但し初學年度には本科の家政文學の兩學部を設置し時宜に應して他學部及研究科に及すものとす

第七條 科目 家政部及文學部の科目は左の如し

第一 家政部の科目

必修科目 倫理及社會學、心理及教育生理及衛生、經濟及法規、應用理化、家政及藝術、體操、

選修科目 國文、漢文、英語、佛語、歷史、美學、哲學及哲學史、教授法、音樂、圖畫、

第二 文學部を分て國文學部、英文學部の二種とす

一 國文學部の科目

必修科目 倫理及社會學、心理及教育國文、漢文、哲學及哲學史、歷史、體操

選修科目 倫理、生理及衛生、應用理化、家政及藝術、英語、佛語、經濟及法規、教授法、

音樂、圖畫、

一 英文學部の科目

必修科目 倫理及社會學、心理及教育、英語、國文、美學、哲學及哲學史、歷史、體操

選修科目 佛語、生理及衛生、漢文、應用理化、家政及藝術、教授法、音樂、圖畫、

第八條 修業年限 本校各學部の修業年限の最短期を三ヶ年とし生徒の事情に依り在學年限を延長することを得但研究科の修業年限は三ヶ年以内とす

第三章 學年 學期 休日

第九條 學年 學年は四月一日に始り翌年三月三十一日に終る

第十條 學期 學年を分て左の三學期とす

第一學期 四月十日より七月十日に至る

第二學期 九月十一日より十二月二十四日に至る

第三學期 一月八日より三月三十一日に至る

第十一條 定期休業 は左の如し

夏季休業 七月十一日より九月十日に至る

冬季休業 十二月廿五日より一月七日に至る

春季休業 四月一日より同月九日に至る

第十二條 定日休業 は左の如し

日曜日

秋季皇靈祭

神嘗祭 十月十七日

天長節 十二月三日

新嘗祭 十一月廿三日

孝明天皇祭 一月三十日

紀元節 二月十一日

春季皇靈祭

皇后陛下御誕辰 五月廿八日

本校創立紀念日

第四章 學科課程 授業時間

第十三條 學科課程

第一 家政部

倫理及社會學

實踐倫理、倫理學、實踐社會學

心理及教育

心理學、教育學、保育學、家庭教育、兒童研究、童話研究

生理及衛生

生理學、衛生學、家庭衛生、婦人衛生、社會衛生、看病學

應用理化

家庭應用理化、食品化學、

家政及藝術

衣、食、住、社交、女禮、家庭、美術、園藝、

經濟及法規

經濟學、家庭經濟、帝國憲法、民法及諸法規

體操

普通體操、遊戲體操、教育體操、容儀體操、

第二一 國文學部

倫理及社會學

實踐倫理、倫理學、實踐社會學、

心理及教育

心理學、教育學、保育學、家庭教育、兒童研究、童話研究

國文

散文美文講讀、作文、作歌、文典、修辭學、文學史

漢文

經書史文講讀

美學

美學一斑

哲學及哲學史

哲學總論、東西哲學史

歷史

國史

躰操

普通躰操、遊戲躰操、教育躰操、容儀躰操

第三 英文學部

倫理及社會學

實踐倫理、倫理學、實踐社會學、

心理及教育

心理學、教育學、保育學、家庭教育、兒童研究、童話研究

英諸

散文、美文講讀、作文、文典、修辭學、文學史、

國文

講讀、文法

美學

美學一班

哲學及哲學史

哲學總論、東西哲學史、

歷史

外國史

躰操

普通躰操、遊戲躰操、教育躰操、容儀躰操、

第十四條 教授時間 教授時間は各學部を通して必修科を二十一時間とし、選修

科を七時間とし、都合二十八時間とす

第十五條 時間配當 各學部の時間配當は別表の如し

家政部學科課程及時間表

許	體操	經濟及法規	家政及藝術	應用理化	生理及衛生	心理教育及	社會學及倫理學	科	學
								目	年
二二	三		八	四	二	二	二	時間	授業
	普通體操、遊戲體操、容儀體操		女衣、禮食、等住	食家庭應用化學	衛生生理學	心理育理學	實踐倫理		第一學年
二二	三	二	八	二	二	二	二	時間	授業
	全上	家庭經濟學	社衣、交食、等住	食同品化學上	家婦庭人衛生	保教育育學	倫理學		第二學年
二二	三	二	一〇		二	三	一	時間	授業
	全上	帝國民法及憲法	園家衣、庭食、藝美、等術住		社看會病衛生	童兒家庭研究	實踐社會學		第三學年

選修科目

國文	漢文	英語	歷史	圖畫	音樂	美學	哲學	教授法
二	二	二	二	二	三	一		
二	二	二	二	二	三	四		
二	二	二	一	二	三	二		一

國文學部學科課程及時間表

計	體操	歷史	哲學及史	美學	漢文	國文	心理教育及	社會學及	科學
									科目
二二	三	一	一		二	一〇	二	二	授業時間
	普通躰操、遊戲躰操、 教育躰操、容儀躰操、	國史	哲學總論		經書史文講讀	散文、美文講讀 文典、作文、作歌	心理學	實踐倫理	第一學年
二二	三	一	一		二	一〇	二	二	授業時間
	全上	全上	哲學史		全上	全上 作文、修辭、學歌	教育學	倫理學	第二學年
二二	三	一		一	二	一一	三	一	授業時間
	全上	全上		美學一班	全上	散文、美文講讀 文學史、作文、作歌	兒童家庭研究 話庭研究	實踐社會學	第三學年

選修科目

英 語	生 理 及 生 化	應 用 化 學	家 政 及 術	經 濟 及 規	圖 畫	音 樂	教 授 法
二 七	二	四	二 七		二	三	
二 七	二	二	二 七	二	二	三	
二 七	二		二 七	二	二	三	四

英文學部學科課程及時間表

計	體操	歷史	哲學史及	美學	國文	英語	心理教育及	倫理學及	科學
									科目
二一	三	一	一		二	一〇	二	二	授業時間
	普通躰操、遊戲躰操、容儀躰操、教育躰操	西洋史	哲學總論及哲學史		散文美文講讀、文法	散文美文講讀、文法	心理教育學	實踐倫理	第一學年
二一	三	一	一		二	一〇	二	二	授業時間
	全上	西洋史	哲學史		全上	全辭學、作文上	教育學	倫理學	第二學年
二一	三			一	一	一二	三	一	授業時間
	全上			美學一班	全上	全文學史、作文上	家庭兒童教育研究	實踐社會學	第三學年

選修科目

漢文	衛生及理	應理化	家政及術	經濟及規	圖畫	音樂	教授法
二	二	四	二 七		二	三	
二	二	二	二 七	二	二	三	
二	二		二 七	二	二	三	四

第五章 及落 卒業

第十六條 及落 生徒の及落は各科目平常の成績により教員會議の決議を以て之を評定す

第十七條 卒業 生徒の卒業は各科目平常の成績と卒業論文とを参照し教員會議の議決を以て之を評定す

第十八條 卒業證書 本科卒業の者には本科卒業證書を授與す

第六章 入學 在學

第十九條 定期入學 定期入學は毎學年の始め一回とす

第二十條 臨時入學 生徒に欠員ある時は試験の上臨時入學を許可すべし

第二十一條 無試験入學 身軀健全品行方正にして左の資格あるものは無試験にて定期入學を許可す

一 本校附屬高等女學校卒業生

一 修業年限五ヶ年の官公私立高等女學校の卒業生

一 本校附屬高等女學校と同等以上にして本校と特別の關係ある女學校の

卒業生

但し修業年限四ヶ年以下の高等女學校卒業生は學力査定の上本校附屬高等女學校の相當級に編入し卒業の上無試験にて入學を許可するも英語科目を課せざる高等女學校の卒業生若くは英語の學力不充分なる者は英語專修の後にあらざれば英文學部に入學するを得ず

第二十二條 入學試験 入學試験の程度は本校附屬高等女學校卒業生の學力に準ず

第二十三條 入學書式 入學志願者は左の書式に従ひ入學願書及履歷書各一通を差出すべし

入學願書(無試験入學志願者は「試験の上」を署し受験)
入學志願者は「無試験にて」を署すべし

本籍 府 市 區 町 番 地
縣 國 郡 村 番 戶

華士族平民 何 某 何 何
姉 妹 女

何 誰

年 齡

私儀御校何學部へ入學仕度候間、無試験にて「試験の上」御許可被成下度別紙履
歷書相添へ此段御願申上候也

年 月 日

日本女子大學校々長何某殿

右

何

誰

印

履 歷 書

本籍 府 縣 區 市 町 村 番 地
國 郡 戶

華士族平民何

某

何姉
何妹

何

誰

一 生年月日

一 生地

一 轉住(何歳より何歳迄何地に轉居す云々)

一 現住所

一 兩親の有無年齢

一 父兄の職業

一 何年何月より何年何月迄何學校にて第何學年修業中或卒業

一 何年何月より何年何月まで何地何誰に就き何學を修業す

一 賞罰

一 賞罰

右之通に候也

右

年 月 日

何

誰 ⑩

第二十四條 在學證書 入學の許可を得たる者は左の書式に従ひ在學證書を差

出すへし

在學證書

現住所

印 證 券
紙

本籍府 國 市 區 町 村 番 地

華士族平民 何 某 姉何 妹女

何 誰

年齡

右之者今般御校へ入學御許可相成候に付ては同人在學中御校規を堅く相守
らせ候は勿論同人に係る一切の事柄は拙者に於て御引受け可申候仍て保證
書如斯に候也

但拙者轉居或は改印の節は速に御届可申候也

現住所

本籍族

保證人 何

誰 印

年 月 日

日本女子大學校々長何某殿

第二十五條 保證人の資格 保證人は丁年以上にして東京市内に一家を立て被

保證生徒の監督をあし同人の身分に關し一切の事柄に責を負ひ得べき者たるを要す

但し郡部在住者と雖も本校の見込により保證人たることを承認すべし

第二十六條 代理保證人 保證人長く旅行する時は豫め相當の代理保證人を定め本校へ届出へし

第二十七條 保證人の變更 保證人の死去又は轉住の節は直に第二十五條の資格を有する人を以て之に代へ改めて在學證書を差出すへし

第七章 退學 休學

第二十八條 退學の命令 品行不良あるか若くは學力不足なるか又は體質多病にして充分の訓戒獎勵を加ふるも到底成業の見込なしと認定する時は退學を命ず

第二十九條 退學願 退學せんと欲するものは保證人連署して其の理由を認めたる退學願書を差出し校長の許可を得へし

第三十條 休學願 生徒の疾病其他止を得ざる事故の爲め三ヶ月以上修學し能

はずと認むる時は豫め其許可を得て一學年以内の休學をなすことを得

第三十一條 休學解除 休學期限内と雖も休學の事故止む時は休學を解除し原級に復せしむ

第八章 特待生

第三十二條 特待生 本校本科第二等級以上の正科生にして品行善良あるか又は學力優等ある者は前學年の成績に依り教員會議の議を経て特待生となし次學年度の授業料を免除することあるべし

第九章 選科生

第三十三條 入學 各學部の一科目又は數科目を選修せんと欲する者あるときは教授上に差支なき場合に限り選科生として入學を許可す

第三十四條 入學の資格 選科生は年齢十七年以上にして選ぶ所の科目の學力を査定し該科目を修むるに堪ふると認めたる者に限り之を許す

但し第二十一條の無試験入學の資格を有する者は此限にあらず

第三十五條 證明書 選科生にして所選科目を正當に學習したる者には望によ

證明書を授與すべし

第三十六條 諸規則 特に選科生の爲に設定せるものは勿論其他本校の諸規則は之を選科生にも適用するものとす

第三十七條 入學願 選科生として入學せんと欲するものは左の書式に従ひ入學願書を差出すへし

入學願

本籍

族何 某何 姉何 妹女

何

年 誰 齡

私儀御校何學部何々科目の選科生として入學仕度候間「試験の上」無試験にて御許可被成度別紙履歷書相添へ御願申上候也

年 月 日

右 何

誰 ㊦

日本女子大學校々長何某殿

第十章 科外講演

第三十八條 目的 科外講演は正科學習の參考補缺に供せんが爲に開設するものとする

第三十九條 回数 科外講演は毎月數回臨時に之を開設するものとする

第四十條 講師 専門の大家を聘して科外講師に囑托するのみならず臨時諸名家の出演を乞ふことあるへし

第四十一條 聽講者 本校の生徒たると校外者たるを問はず凡て科外講演に出席せんと欲する有志者を以て聽講者とする

第四十二條 聽講料 聽講者たらんと欲する者は聽講料を前納せしむることあるへし

但聽講料は講演の長短に依て規定すへし

第四十三條 聽講券 聽講者は必ず聽講券を携帯すべきものとする

第十一章 學費

第四十四條 受験料 入學志願者は左の規定に従ひ受験料を入學願書に添へて

納むへし

但既納受験料は何等の事情あるも返附せず

一定期受験入學者 金一圓

一臨時受験入學者 金一圓五十錢

第四十五條 入學料 入學の許可を得たる者は入學料金貳圓を在學證書に添へて納むべし

第四十六條 授業料 授業料は壹學年金貳十七圓五十錢とし一ヶ月金貳圓五十錢の割合にて毎學期の初め五日以内に分納すべし

但事情に依り毎月初めに分納することを許可することあるべし

第四十七條 校費 校費は壹ヶ月金五十錢の割合にて毎學期の初に前納すへし
但事情に依り毎月初めに分納することを許可することあるへし

第四十八條 樂器使用料・樂器演習をなす者は左の使用料を毎月初めに前納すへし

一オルガン使用料 金五十錢以上

一ピアノ使用料 金一圓以上

附屬高等女學校規則

第一章 總則

第一條 目的 日本女子大學校附屬高等女學校は女子に須要なる高等普通教育を授くる所とす

第二條 位地 附屬高等女學校は日本女子大學校内に置く

第二章 科目 修業年限 學期休業

第三條 科目 附屬高等女學校の學科目は倫理、國語、外國語、(英)歴史、地理、數學、理科、家事、裁縫、習字、圖畫、音樂、体操とす

第四條 修業年限 附屬高等女學校の修業年限は五ヶ年とす

第五條 學年 本校の規定に従ふ

第六條 學期 全前

第七條 休業 全前

第三章 學科課程 及落 卒業

第八條 學科課程 學科課程及時間配當表は左表の如し

高等女學校學科課程及時間表

學 科 目	第一學年					第二學年					第三學年					第四學年					第五學年				
	時間	一週	時間	一週	時間	一週	時間	一週	時間	一週	時間	一週	時間	一週	時間	一週	時間	一週	時間	一週	時間	一週			
倫理	一	人倫の要旨	一	全	上	一	全	上	一	全	上	一	全	上	一	全	上	一	全	上	一	全	上		
國語	五	讀方、譯解會話、發音、習字	四	全	上	三	全	上	三	全	上	三	全	上	三	全	上	三	全	上	三	全	上		
外國語	五	讀方、譯解會話、發音、習字	五	全	上、會話	七	全	上	七	全	上	七	全	上	八	全	上	八	全	上	八	全	上		
歷史						二	本邦歷史		二	本邦歷史		二	本邦歷史		二	本邦歷史		二	本邦歷史		二	本邦歷史			
地理	二	本邦地理	二	外國地理																					
數學	三	算術	三	算術	二	代數	二	幾何																	
理科	一	自然示教	二	動植物	二	物理化學	二	生理衛生	二	地織、家計簿記、看護、育児等	二	地織、家計簿記、看護、育児等	二	地織、家計簿記、看護、育児等	二	地織、家計簿記、看護、育児等	二	地織、家計簿記、看護、育児等	二	地織、家計簿記、看護、育児等	二	地織、家計簿記、看護、育児等	二	地織、家計簿記、看護、育児等	
家事																									
裁縫	四	裁縫方方	四	縫全方上	四	全上	三	全上	三	全上	三	全上	三	全上	三	全上	三	全上	三	全上	三	全上	三	全上	
習字	二	楷書	二	行書	二	假名交り、草書	二	全上	二	全上	二	全上	二	全上	二	全上	二	全上	二	全上	二	全上	二	全上	
圖畫	二		二		二		二		二		二		二		二		二		二		二		二		
音樂	二	單音唱歌	二	單音唱歌	二	複音唱歌	二	複音唱歌	二	複音唱歌	二	複音唱歌	二	複音唱歌	二	複音唱歌	二	複音唱歌	二	複音唱歌	二	複音唱歌	二	複音唱歌	
躰操	三		三		三		三		三		三		三		三		三		三		三		三		

第九條 及落及卒業 生徒の及落及卒業は各科目平常の成績により教員會議の議を経て之を評定す

第十條 證書授與 第四學年以上の各學年及第者には學年修業證書を授與し第五學年及第生には卒業證書を授與す

第四章 定員 入學 退學

第十一條 生徒の定員 附屬高等女學校の生徒定員は凡そ四百名とす

第十二條 入學期 定期入學は每學年の始め一回とするも欠員ある時は臨時入學を許可することあるへし

第十三條 入學資格 は年齢十二年以上にして高等小學校第二學年の課程を卒業したる者は第一學年級に無試験にて入學することを許可するも其他は凡て試験の上にて入學を許可す

但高等小學校卒業者は試験の上第二年級又は相當級に又修業年限四ヶ年以下の高等女學校の生徒或は卒業生は學力査定の上相當級に編入す

べし

第十四條 入學書式 入學志願者は左の書式に従ひ入學願書及履歷書各一通を
差出すへし

入學願書

本籍 縣府 國 市區町 郡村 番地 戸

華士族平民 何 某 何 姉 妹 女

何 誰

年 齡

私儀御校附屬高等女學校(若くは第何年級)へ入學仕度候間「無試験にて」試
験の上御許可被成下度別紙履歷書相添へ此段御願申上候也

年 月 日

右 何

誰 印

日本女子大學校御中

第五章 選科生

第十五條 選科生 正科の科目を選て學習せんと欲するものは正科生に欠員あ
りて教授上に差支なき場合に限り選科生として入學を許可す

第十六條 入學資格 選科生は年齢十二年以上にして試験の上所選科目を學修

するに堪ふると認めたる者に限り入學を許可す

但し正科生たるの資格あるものは此限にあらず

第十七條 證明書 本校の規則に従ふ

第十八條 諸規則 全上

第十九條 入學願書 全上

第六章 學費

第二十條 附屬高等女學校生徒は左の學費を納むべし

一 受験料 本校の規定に従ふ

一 入學料 全前

一 受業料 は一學年金貳拾貳圓とし一ヶ月金貳圓の割合にて毎學期の初

め五日以内に分納すべし

但事情により毎月初に分納することを許可すべし

一 校費 本校の規定に従ふ

生徒心得

本校の生徒たる者の本領は自己の品性智能を啓發するに在ることを明白に悟り善學の二字を念々忘ることかく常に左の條々を恪守實踐すべきあり

一教育 勅語の聖旨を奉體すべきは勿論固く本校教育の趣旨を服膺し校規を遵守し師友を敬愛し自ら治め自ら制して遊逸華奢に陥らず己を重じ人を尊び温順恭謙にして學に誇らず信義禮節を守て輕浮に流れず志操を鞏固にし氣品を高潔にし以て貞淑の美德を涵養せんことを務むべし

一學を修め藝を習ふには勉めて自ら觀察研究し自ら思考判斷するの習慣を養ひ女生徒の通患として只管教師の説明と著者の意見とのみに依頼するの弊に陥ることなく博識多能ならんよりは寧ろ事物の眞相關係を辨知し藝術の原則妙理を會得するの知力を開發鍊磨し他日卒業の後と雖も萬般の事物に接して永く効力を有し應用自在ならんことを期すべし

一一家の主婦たる重任を負へる女子にして羸弱多病なる時は一身一家の不幸

は云ふも更なり餘累を子孫に遺し社會を害毒するの恐あれば各自の體質に
應じて適宜の運動體操をなし衣服より飲食讀書睡眠に至るまで凡て衛生の
道を守り身體の強健ならんことを務むべし

日本女子大校學寮規

第一條 本校の寮生たる者は克く本寮の目的を會得し教職員の命を奉し長幼相

助ケ親和を旨とし自奮自脩の精神を以て何事にも相一致して家庭同様の
共同生活を營むべきは勿論事々に秩序を保ち時間を守るの習慣を養ひ殊
に精神の修養身體の健康に注意すべし

第二條 本校生徒中に希望者ある時は洋風の寮舎に於て外國教師監督の下に西
洋家庭の風を學ばしむ

但上級生徒の希望者を順次に入寮せしむるものとす

第三條 上級寮生をして順番に主婦の地位に立たしめ寮監監督の下に於て家事
の整理を習はしむ

第四條 寮生の學費は凡て寮監の手を経て之を會計に預り濫費なからしむ

第五條 本校々醫は寮の衛生を司り病者ある時は之を診察し病狀の輕重により
相當の取扱をなすべし

第六條 時々寮生を携へて學識經驗ある婦人を訪問し或は之を招待して談話を

請ひ實地の見聞を廣め日用の常識を養はしむ

第七條 寮生は左の寮費を毎月前納すべし

但時價の高低に依り増減するとあるべし

普通寮生寮費 金五十錢
食料費 金六圓

外國教師館寮生寮費 金十一圓
食料費

東京市神田一ツ橋通町廿一番地

帝國教育會內

日本女子大學校創立事務所

日本女子大学史資料集 第五

日本女子大学校規則

〔明治三十三年〕

発行日 一九九八年三月一五日

編集 日本女子大学成瀬記念館

発行 日本女子大学成瀬記念館

〒112 8681 東京都文京区目白台二一八一

電話 (〇三) 三九四二一六一八七

印刷 共同印刷株式会社

〒112 8501 東京都文京区小石川四一四一二

